

# 大豆近況 VOL.178

団体会員  
一般会員 各位  
賛助会員  
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和5年10月4日  
一般財団法人 全国豆腐連合会

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

## ○北米産大豆

9月のシカゴ相場(2023年11月限)は、\$13.69/bus近辺から始まり、最終的には下落し、\$12.75/bus程の引けという月となりました。中国の景気悪化懸念やブラジル大豆の豊作による競争力の低下(いずれも米国産大豆の輸出が減少する要因)を背景に、9月末に発表された米国産大豆の四半期在庫が事前予想よりも多い結果となったため、相場は下落しました。

米国農務省が9月に発表した2023/24年度の米国大豆需給報告の詳細は下記表のとおりとなっております。

2023/24年度 米国産大豆 需給表

項目 / 発表月	①	②	② - ①
	2023年8月	2023年9月	
作付面積 (百万エーカー)	83.50	83.60	0.10
収穫面積 (百万エーカー)	82.70	82.80	0.10
差異 (百万エーカー)	0.80	0.80	0.00
収穫率 (%)	99.04	99.04	0.00
単収 (ブッシェル/エーカー)	50.90	50.10	-0.80
期初在庫予想 (百万t)	7.08	6.80	-0.27
生産量 (百万t)	114.44	112.84	-1.61
輸入量 (百万t)	0.82	0.82	0.00
総供給量 (百万t)	122.36	120.46	-1.91
搾油用 (百万t)	62.60	62.32	-0.27
輸出 (百万t)	49.67	48.72	-0.95
種子用 (百万t)	2.75	2.75	0.00
その他 (百万t)	0.68	0.68	0.00
総需要量 (百万t)	115.70	114.47	-1.22
期末在庫 (百万t)	6.67	5.99	-0.68
在庫率 (%)	5.76	5.23	-0.53
農家平均価格 (\$/bu)	12.70	12.90	0.20

供給面は単収の低下による生産量の下方修正及び期初在庫の下方修正により減少、総供給量は120.46百万トンへ下方修正されました。需要面は搾油用、輸出用の減少により総需要量は114.47百万トンへ下方修正されました。その結果、期末在庫は5.99百万トン、先月比0.68百万トンの下方修正となりました。この結果は相場にとって強材料となりました。

また、米国産大豆の最新の生育進捗状況は下記のとおりとなっております。

#### 2023年産 米国産大豆 クロップレポート

項目	9月17日	9月24日	昨年同日	5年平均
作柄（良+最良）	52	50	55	-
落葉（%）	54	73	60	62
収穫（%）	5	12	7	11

9月24日時点では、落葉、収穫へ進んでおります。落葉の進捗率は73%となっており、昨年同日及び5年平均よりも進んでいることが読み取れます。収穫の進捗率は12%となっており、こちらも昨年同日及び5年平均よりも進んでおります。作柄に関しては、前週よりも2ポイント下がり、50ポイントとなっております。北部、西部を中心に降雨が発生、成熟に悪影響が発生している可能性を受け、下方修正されたものと思われます。この結果は相場にとって強材料となりました。

9月30日に9月1日時点の米国産穀物の四半期在庫が発表されました。詳細は下記のとおりとなっております。

#### <四半期在庫報告>

##### USDA 23年9月1日時点 在庫数量 (百万ブッシェル)

	2023年9月1日	市場予想平均	予想レンジ	2022年9月1日
大豆	268	242	216-270	274
コーン	1,361	1,429	1320-1487	1,377
小麦	1,780	1,772	1710-1852	1,776

大豆は市場予想平均 242 百万ブッシェルに対して、結果は 268 百万ブッシェルと市場予想平均よりも 26 百万ブッシェル高い結果となりました。なお、前年同時期が 274 百万ブッシェルですので、前年よりも在庫が少ない状況であることがわかります。前年同時期よりも在庫数は少ない状況ではありますが、市場予想平均を上回った結果は、シカゴ大豆相場に弱材料として大きく影響を与えました。

また、2023/2024 年度の世界大豆需給報告の詳細は次のとおりとなっております。

## 2023/24年度 世界の大豆 需給表

項目 / 発表月		①	②	②	①
		2023年8月	2023年9月	-	
世界大豆需給	期初在庫予想 (百万t)	103.09	102.99	-0.10	
	生産量 (百万t)	402.79	401.33	-1.46	
	輸入量 (百万t)	166.25	165.97	-0.28	
	国内消費 (百万t)	383.94	382.62	-1.32	
	(内 国内搾油用 (百万t))	329.53	327.74	-1.79	
	輸出 (百万t)	168.77	168.42	-0.35	
	期末在庫 (百万t)	119.40	119.25	-0.15	
	在庫率 (%)	31.10	31.17	0.07	
主要輸出国生産内訳	米国 (百万t)	114.45	112.84	-1.61	
	アルゼンチン (百万t)	48.00	48.00	0.00	
	ブラジル (百万t)	163.00	163.00	0.00	
	パラグアイ (百万t)	10.00	10.00	0.00	
中国輸入量 (百万t)		99.00	100.00	1.00	

先月比で供給面は期初在庫・生産量・輸入量が下方修正、需要面では国内消費・輸出が下方修正となった結果、期末在庫は119.25百万トンと先月比0.15百万トンの下方修正となりました。この結果は相場にとって若干の強材料となりました。

ブラジル・アルゼンチンに関してですが、上記表のとおりいずれも2024年産の予想生産量は先月から変更はありません。なお、上記表には記載されておりませんが、2023年産の生産量予想も先月から変更はありません。(ブラジル156百万トン、アルゼンチン25百万トン)南米では10月頃から播種が始まります。アルゼンチンにおいて少雨はありますが、十分な土壌水分を満たす量ではないため、乾燥の拡大が懸念されております。

南米の大豆を取り巻く環境以外で相場に影響を与える要因として、中国を中心とした世界需要があります。直近の米デイリーレポートシステムでは、中国向けに13.2万トンの新規輸出成約が報告されました。また米国産大豆週間輸出検証高は66万トンとなり、この結果は事前予想レンジ(35万トン～73万トン)の範囲内ではありますが累計数量は197万トンであり、前年同時期が182万トンとなっておりますので、昨年よりも成約が進んでいる状況であります。

ロシア・ウクライナの国際情勢等も相場へ影響を与える場合がありますので、引き続き注意が必要と思われれます。

北米産大豆の入港状況は、米西海岸からの配船は安定してきたものの、大豆産地からの貨車輸送はまだ安定したとは言い切れない状況です。また、海上運賃は落ち着きを見せております。

## ○為替相場

9月の円相場は、1ドル146円前半から始まりました。9月2週目、米国の8月消費者物価指数及び8月小売売上高が市場予想を上回る結果となったこと、更に原油高が続いたことを受け、インフレ緩和の思惑は後退、米長期金利は上昇し円安/ドル高へ、週末には147円後半まで円安が進みました。その後、植田日銀総裁による「現在の枠組みで粘り強く金融緩和を続ける必要がある」、内田日銀副総裁による「YCC(長短金利操作付き量的・質的金融緩和)柔軟化は金融緩和の持続性を高めることが狙い」等の発言、また、ミネアポリス連銀のカシュカリ総裁による「中立金利が上昇する可能性がある」、「FRBは来年も金利を据え置くと予想している」との発言を受け、ドル買/円売が進んだことなどを背景に最終的には1ドル148円後半で引けという月になりました。米国のインフレ状況・政策金利の動向等により、今後も為替は大きく変動し易い状況であり、他国の情勢だけではなく日本銀行の金利政策の方針にも注視する必要があります。

## ○国産大豆

最新の令和5年産国産大豆の生育状況は下記のとおりです。

### ・北海道

好天続きで全体的に平年比9日早い生育。早いところは9月中旬より収穫開始。ところによっては若干小粒傾向の可能性のあるものの、基本的には生育良好。面積も増えていることから豊作だった昨年並かそれ以上の収穫量を予想。

### ・東北

秋田:7月中旬の大雨冠水被害にあったが、その後はうまく排水処理されたことで、作柄は大きく回復。ただし、逆にその後は晴天が続く高温障害等により、収量不足(ところによっては2割ほど)減の懸念。

青森:夏場が今までにないぐらい暑く、高温の影響(着莢が悪い、虫の発生等)がみられる圃場もあるが、基本的には順調に生育。

その他の県は、宮城含め基本的に良好。

### ・関東

全体的に概ね適期に播種が行われ、生育は順調。

### ・北陸

7月後半以降、各地域は高温や乾燥傾向にあり、花落ちや莢付きに影響が出ている圃場あり。新潟中心に現時点で生育不良と見られる圃場も多い。

### ・東海

極端な降雨の少なさで発芽不良や生育の遅れがあったものの、その後は取り戻し平年並みの生

育状況。

・近畿

滋賀・兵庫：6月の断続的な降雨により播種が遅れ、7月後半以降の晴天による干ばつで生育不良と見られたが、若干取り戻しつつあるものの基本的には平年並かそれ以下の収量となる予想。

・中国

鳥取・島根：線状降水帯被害があったものの大豆作付地域への影響は限定的。

山口：虫害の発生が多数。今後の天候次第であるが平年並～やや不良。

・九州

現時点では直接的な大雨・台風被害はなく、生育も順調。今後の天候に注目。

順調に生育が進んでいる地域と、天候被害の影響を大きく受けている地域があり、反収・作柄の地域差が生まれる可能性があり、今後も注視が必要です。

以上